

# 名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)

**17** パートナーシップで  
目標を達成しよう



# SDGsセンターの開設セレモニー及びSDGs IDEA FORUM 2020 で最優秀賞を受賞した本学学生デザイン自動販売機の除幕式を開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年5月14日、本学に開設した「名古屋市立大学SDGsセンター（NCU SDGs Center）」のオープニングセレモニーを山の畑キャンパス1号館にて開催しました。SDGsセンター長の薬学研究科 林教授の挨拶に続き、参列した名古屋市総務局の関嶋主幹、池田主幹よりお祝いの言葉が送られました。</p> <p>また、SDGsセンターの活動の第一弾として、本学人文社会学部の学生とコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）とのコラボレーションにより、学生デザインのイラストをラッピングした自動販売機が同大学山の畑キャンパスに設置され、その除幕式も行われました。デザインは、大学生のアイデアで名古屋市の地域課題の解決を目指す「SDGs IDEA FORUM 2020」で最優秀賞を受賞した人文社会学部学生グループ「NCU Global Justice Project」が、海洋プラスチックゴミ問題の解決の一環として企画したものです。</p> <p>今後も本学では、行政、産業界、金融界などの各機関との連携を深めながら、国際社会共通の課題に積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年5月</p>



名古屋市立大学SDGsセンター 開設セレモニーの様子



自動販売機の除幕式の様子

## 内閣府 地方創生SDGs官民連携プラットフォームに会員登録しました



活動の概要	名古屋市立大学は、内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に会員登録しました。 これは、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として設置されたものです。
活動の時期	2021年6月以降
関連URL	<a href="#">地方創生SDGs官民連携プラットフォーム</a>

# 名古屋市SDGs推進プラットフォームに会員登録しました



活動の概要	名古屋市立大学は、2021年5月に名古屋市が創設した「名古屋市SDGs推進プラットフォーム」に会員登録しました。 本学の設置団体でもある名古屋市とともに、SDGsの達成に向けて取り組んでまいります。
活動の時期	2021年6月以降
関連URL	<a href="#">名古屋市SDGs推進プラットフォーム</a>

# 本学医学部生による「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを開催！



<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月11日および25日に、本学医学部4年生の社会医学（予防医学基礎）コース・社会医学実習のテーマ内で、「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>本学は、2020年12月にJSTの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型において「近未来労働環境デザイン拠点」事業として採択されており、SDGs Goal 3, SDGs Goal 8, SDGs Goal 11の達成への寄与として、「すべての労働者が労働しながら元気になる労働環境をデザインする」ことを目指しています。今回のワークショップは、このプロジェクトの一環として開催したものです。内視鏡治療医療従事者の間では筋骨格系障害が多数報告されており、未来の労働環境改善のための具体的な方策を学生目線で議論しました。</p> <p>当日は、内視鏡治療に関する基礎講義を行った後、16名の学生を4グループに分け、「100歳まで元気に生き活きと、働きながら健康になる未来の内視鏡医療労働ビジョン」というテーマでグループワークを行いました。学生たちは、「労働のあるべき姿（ありたい姿）」の要素を抽出し、バックキャスト法（現状の課題から未来を考えるのではなく、未来の「ありたい姿/あるべき姿」を設定し、そこから逆算で“いま”を考える思考法）で2040年の内視鏡労働医療ビジョンを議論しました。</p> <p>最後に行われたプレゼンテーションでは、「内視鏡医療労働は時間的にポータレス化が進むことが予想される。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内視鏡医の育成・教育面や内視鏡医の労働環境がグレードアップすることが必要。」「医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技能評価制度が実現。正当に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを喚起し、医療の質情報を患者も参照できることで、市場原理・競争原理が作用し、医療の質も向上する。」などの未来ビジョンが発表されました。</p> <p>「未来の医療労働のあるべき姿」を考えることを通じて、働きがいや経済成長、産業と技術革新の基盤の整備といった社会システム要素が医療従事者の健康・福祉と関係することを包括的視点で考えることを通じて、SDGsの基本的理念の習得にもつながる教育プログラムです。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月</p>



当日の様子1



当日の様子2

## 【学生の感想（一部抜粋）】

- 技術の限界を考えずに未来ビジョンにディスカッションするのはとても面白かったです。別のテーマでもやってみたいと思いました。
- 労働に関して、樹形図（マインドマップ）を書くなどして話し合うことで新たな視点から考えることができました。自分たちが考えた未来像が少しでもいい方向に実現したらいいなと思います
- 未来と一言で言っても皆それぞれ出てくるイメージが違い、他の人のアイデアなど発表で確認できて面白かった。
- 未来のテクノロジー発展や新しいデバイスについて想定をしながら教育面や労働環境面についてディスカッションし先生方や同級生たちの様々な考え方や意見を聞け、医療機器についての柔軟な発想やAIや翻訳技術の進化へのアプローチの仕方やそれらを用いた教育など、自分が考え付かなかったことも多く学びが多かった。
- 今まで医療の未来ビジョンについて詳しく話し合ったりする機会はなかったので、今回のワークショップはとても有意義なものだった。マインドマップに意見をまとめていくことでそれまで出た意見から新しい意見を考えやすくなった。そして堀先生の講義などを通して内視鏡についての理解も深まった。
- グループで行うことにより考えが深まりました。堀先生に実際の現場での状況を聞けることで内視鏡治療への理解も進みました。最初は漠然としたものが多くまとまるのが不安でしたが先生方の助言により良いものができたのでやってよかったと思いました。
- 1人で考えるよりグループでアイデアを出し合った方が、多面的、奇抜な発想が多く生まれて、解のない問題解決の手法としてとても興味深いと感じました。ワークショップ前はこの方法では地に足がつかぬ結論しか出ないのでは、と思っていましたが、堀先生の講義と、その後ワークショップに参加して下さることにより、良いバランスでワークショップを進めていくことができたと感じています。
- 普段講義を聞くのがあまり得意ではない自分ですが、堀先生の講義を真剣に聞くことができ、内視鏡治療について興味が湧いたの

は言うまでもなく、話し合いの途中で榎先生や堀先生から直接貴重なアドバイスをいただけて、自分たちにとって得るものがとても大きかったグループ実習でした。

【4グループの学生がまとめた未来ビジョン】 ＊クリックして拡大

**Preferable Future 2040**

**テラーメード・バイオセンシングを用いた包括型医療・予防システムが実現する。**  
多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Aグループ

**Preferable Future 2040**

**内視鏡医療労働は時空間的にボーダレス化が進む。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内視鏡医の質・教育面や内視鏡医の労働環境がグレードアップする。**

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Bグループ

**Preferable Future 2040**

**医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技能評価制度が実現。正當に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。**

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Cグループ

**Preferable Future 2040**

**健康増進を担保する働き方が常識となる。医師の労働環境が整備され、若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なシステムが整備される。**

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。  
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。  
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Dグループ

指導教員：

医学研究科環境労働衛生学： 榎 毅彦教授、松木太郎特任助教

医学研究科消化器・代謝内科学： 堀 寧助教

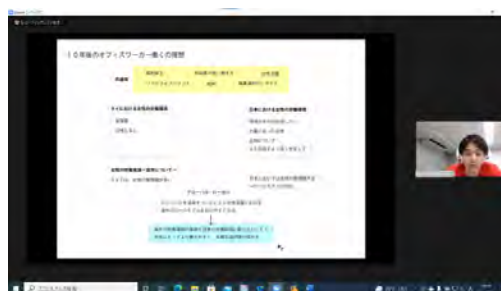
# タイと日本の大学生が近未来の労働環境について議論するオンライン合同ワークショップを開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年7月21日（水）に、本学近未来労働環境デザイン拠点が中心となり、タイと日本の大学生が近未来の労働環境について議論する合同ワークショップを開催しました。</p> <p>本学は、令和2年12月にJSTの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型において「近未来労働環境デザイン拠点」事業として採択されており、SDG3,SDG8,SDG11の達成への寄与として、「すべての労働者が労働しながら元気になる労働環境をデザインする」ことを目指しています。今回のワークショップは、このプロジェクトの一環として開催したものです。</p> <p>当日は、本学に加え、タイの国立大学であるプリンスオブソンクラ大学（PSU）、岐阜市立女子短期大学の学生54名が参加しました。7つのグループに分かれてディスカッションが行われた後、10年後、そして25年後の「労働しながら元気になる労働環境」についてグループごとにプレゼンテーションを行いました。参加した学生からは「10年後はもっとオンラインでの仕事が進んでいると思うが、オンラインの便利さと対面の良さを生かせるオフィス作りが重要」「女性が結婚、出産後も職場に復帰できる環境作りや、残業や休日勤務がなくプライベートが確保できる環境作りが必要」などの意見が発表されました。</p> <p>※本件は、8月8日（日）の毎日新聞（地方版）に掲載されました。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年7月</p>



タイと日本の学生によるディスカッションの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

# SDGs IDEA FORUM 2021の開催について



<p>活動の概要</p>	<p>名古屋市立大学では、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定された名古屋市と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。2020年度に引き続き、2021年度においても、名古屋市と共催で、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を開催します。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2021における名古屋市の5つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■人々が健康に生きられるまちづくり (SDG3,SDG11,SDG16)</li> <li>■名古屋の子どもたちにSDGsを広めよう (SDG4,SDG17,SDG11)</li> <li>■名古屋から食品ロスを減らそう (SDG2,SDG4,SDG12)</li> <li>■多文化が共生できるまちづくり (SDG3,SDG10,SDG11)</li> <li>■名古屋を生物多様性先進都市に (SDG13,SDG14,SDG15)</li> </ul>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年8月～2022年2月</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a></p>



## 名古屋市の地域課題を、大学生のアイデアで解決する。

名古屋市は、2019年に「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs達成のために市民が一体となって地域の課題を解決していくことが求められています。そこで、名古屋市にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、地域課題の解決を目指すプロジェクトをスタートします。



SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を公開。学生が主体となり解決に向けたアイデアを募集。アイデアコンテストを。優秀アイデアには経費無償で実現し取り組みを支援。

## 2021年度は5つの地域課題を選定。



主催：SDGs IDEA FORUM 実行委員会（名古屋市・名古屋市立大学）  
 後援：中日新聞社 名古屋銀行 朝日インテック



## 中日SDGsフェア（8月29日開催）に参加しました



活動の概要	<p>本学は、2021年8月29日（日）にウインクあいちで開催された「中日SDGsフェア」（中日新聞社主催）に参加しました。このフェアは、小学生・中学生・高校生などがSDGsについて身近に感じられるよう企画されたものです。</p> <p>ブースでは、本学のSDGsに関する様々な活動についてパネル等で展示しました。ブースを訪れた来場者の方々は展示内容を熱心にご覧になっていました。</p> <p>また当日は、大学生が「SDGsアンバサダー」となって企業・団体のSDGsの取り組みを取材し、その内容についてプレゼンを行う企画も開催されました。本学からは経済学部の学生が参加し、名古屋銀行のSDGsの取り組みについて取材内容をプレゼンしました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">中日SDGsフェア</a>



ブースの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

# プラスチック容器の完全回収を目指して 東山動植物園 でデポジット制の社会実験を実施！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年11月3日、本学の人文社会学部の学生団体「NCU Global Justice Project」が、ペットボトルの確実な回収を実現するため、東山動植物園でデポジット制の社会実験を行いました。</p> <p>この企画は、2021年2月に開催された名古屋市主催のSDGs IDEA FORUM 2020(※)において、「NCU Global Justice Project」が発表し最優秀賞を獲得したアイデアの一部を具体化したものです。東山動植物園内で20円のデポジットをペットボトル飲料に上乗せして購入し、飲み終わった後に各出口に設置された回収場所でペットボトルを返却すると20円が返金される仕組みです。</p> <p>当日の社会実験には、プラスチックごみの問題などに関心を持ってもらおうと、35人の学生などが参加しました。今回の結果は、論文などにまとめるほか、ペットボトル以外の様々なプラスチック容器の回収に向けた活動などにも応用していく予定です。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年11月</p>
<p>関連URL</p>	<p>当日の様子は、TV・新聞などのメディアでも報道されました。</p> <p><a href="#">メーテレ NEWS</a> <a href="#">中日新聞WEB</a></p>



販売場所の様子



回収場所の様子

※SDGs IDEA FORUMの詳細は、公式ウェブサイトをご覧ください。

[SDGs IDEA FORUM](#)

# NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催！



## 概要

2021年11月3日(水)にオンライン（ZOOM使用）にて、NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることとは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育局・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を開催しました。

今年は東日本大震災から10年という節目の年であること、また昨年から続くコロナ禍での暮らしに鑑み、災害に対する私たちの平時の営みや暮らしが改めて問われている一年でした。災害に対しての危機意識を問い返す時機にあると言えますが、市民目線では、危機意識に個人差があることは否めません。南海トラフ巨大地震が想定される今、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）にある17目標を包括的に捉えながら、私たちのいまをふり振り返り、今後のあり方を考えていくことが求められています。

そこでシンポジウムでは防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

## 参加チーム

- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
- ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
- ・オルタナティブスクール あいち惟の森
- ・名古屋市立北高等学校国際理解コース
- ・名古屋市立名東高等学校国際英語科
- ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科

## スケジュール

13:30 - 13:40 開会の挨拶 (名古屋市立大学SDGsセンター長 林秀敏先生)  
13:40 - 15:00 各参加チームからの報告 (1チーム×8分)  
15:00 - 15:10 休憩  
15:10 - 15:40 ワークショップ (ブレイクアウトルームによるグループワーク)  
15:40 - 16:00 各班からの報告  
16:00 - 16:20 表彰式 (審査員からの講評)  
16:20 - 16:30 閉会の挨拶 (名古屋市立大学人文社会学部長 山本明代先生)

## 審査員と審査結果

各チームの発表を、「テーマと提言／研究内容の適合性」、「プレゼンテーションのわかりやすさ」、「若者目線の独創性」の観点から審査して下さった審査員は、次の6名です（五十音順、敬称略）。

- ・根 岸 恵 子 (特定非営利活動法人こどもNPO理事長)
- ・長谷川 哲 司 (名古屋市教育委員会事務局指導部指導室指導主事)
- ・林 秀 敏 (名古屋市立大学SDGsセンター長)
- ・水 野 角 栄 (名古屋市防災危機管理局危機対策室室長)
- ・村 上 裕 道 (JICA中部センター所長)
- ・山 本 明 代 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科長・人文社会学部長)

審査を待っている間、参加者である高校生・大学生らはチームの枠を超え、それぞれのチームの報告から何を学び、「いま、私たちが備えることとは何か」について話し合うグループワークを行いました。それぞれのチームの報告から、防災へのさまざまなアプローチがあることを知るとともに、幅広い視点から防災を捉えることの大切さに気づき、当事者意識をもって日常にいかにかかすことができるのかを考える機会となりました。

## 審査結果

- ・最優秀賞 : オルタナティブスクール 惟の森
  - ・優秀賞 : 名古屋市立北高等学校国際理解コース
  - ・審査員特別賞: 名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
  - ・研究・実践賞: 名古屋市立工芸高等学校都市システム科
  - ・奨励賞 (プレゼンテーション部門) : 名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
  - ・奨励賞 (オリジナリティ部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
  - ・奨励賞 (防災部門) : 名古屋市立名東高等学校国際英語科
  - ・奨励賞 (SDGs部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- 

## 当日の様子



# Youth Enterprise 2021トレードフェアで本学経済学部 の学生チームが入賞！



活動の概要	Youth Enterprise 2021トレードフェアが2021年11月21日に開催されました。トレードフェアは、国際化・情報化時代に、よりよい社会の実現に向けてアントレプレナーシップ（起業家的行動能力）を発揮できる若者の育成を目的に、2001年より実施しているものです。 今回、本学からは経済学部の鶴飼宏成ゼミの3チームが参加し、全3チームが入賞を果たしました。3チームとも、自分たちのアイデアを実現するために自ら協力企業を見つけ、試行錯誤を重ねた結果、高い評価を受けました。
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">Youth Enterprise 2021トレードフェア</a>

## 本学からの受賞チーム一覧

### ●京都市知事賞(社会貢献度が最も高かったチーム)

#### 「すてる責任」をひと手間で

チーム名：スマイクル

#### <企画概要>

「すてる責任」を果たすために、『油吸ってポイ』という商品を販売します。液体ごみを排水溝へ流す際に、最も悪影響であると言われる”油分”を、ひと手間で取り除く商品を開発しました。専門的な知識を持っている様々な企業様と連絡を取らせていただき、SDGsの達成に力を入れている企業様などからの大きなご協力を承りながら活動してきました。多数の実験や、アンケートの実施、残り汁の数値研究等を行い、商品のブラッシュアップを行いました。今後もより「すてる責任」を果たす効果の高い商品を開発できるように精進して参ります。汚れた液体を排水溝に流すことは液体ごみを捨てていることと同じであるという認識が多くの人に広まり、正しい捨て方で処分することが当たり前になる社会を目指しています。また、商品開発のみならず、広報としてSNSに挑戦しています。液体ごみを正しく捨てることを広める活動自体がとても珍しいため、有効活用していきたいと考えています。



#### <達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG12（つくる責任 つかう責任）

#### <連携団体>

株式会社飛球商会  
株式会社アイ・イー・ジェー  
株式会社エステム  
スズラン株式会社

### ●京都中小企業家同友会賞（ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチーム）

#### ホットアイマスク×昼寝枕でストレスフリー！

チーム名：eaSe

#### <企画概要>

デスクワークをする人の目の疲れをケアするために、EYE MAKURAを販売します。複数の企業にアンケート調査を行った結果、デスクワークにより、目に疲れを感じている人が4割ほどいること、疲れのケアをしていない人が約半数いることが分かりました。目の疲れを放置するとピントが合わない、目がしょぼしょぼするといった目の症状だけでなく、目を動かす筋肉の硬直が全身に伝わり、血行不良による肩こりや頭痛などを引き起こすことがあります。EYE MAKURAはヒーターのある機械部分とクッション性のある枕部分の二層構造になっており、目を温めながら昼寝をする時間を提供します。それにより目の疲れから現れる症状の予防と改善を目指しています。また、企業が社員にストレスケアの機会を設けるなど、企業から個人にケアをするように働きかける流れをつくりたいと考えています。



#### <達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG3（すべての人に健康と福祉を）

#### <連携団体>

株式会社アピックスインターナショナル

- 異能工房賞（実際に起業するなら応援したいチーム） 及び
- スチューデント賞（出展している学生・生徒による投票で最も支持されたチーム）

#### ジェンダーフリーでニコニコライフ

チーム名：NICO NICO

##### <企画概要>

性のマイノリティに関する理解や、性別に関しての”差別”ではなく”正しい区別”があり、誰もがありのままの自分をさらけ出せる、生きやすい社会の実現を目指します。ジェンダー多様性を尊重する人が増えることを目的としています。

①「違いを受け入れる」という考えを持てるようにする教育のための幼児向け絵本の制作、②より多くの方がジェンダー多様性に関する社会課題を身近に感じ、当事者意識を持って課題解決に取り組むきっかけとなるようなグッズの制作、をしています！

##### <達成に寄与するSDGsのGOAL>

SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）

##### <連携団体>

株式会社三恵社(絵本チーム)

YOUTH PRIDE JAPAN(絵本チーム)

色-SHIKI-(グッズチーム)

名古屋市立大学生協 滝子キャンパス 山の畑店

丸善 名古屋本店

kanako(グッズチーム)



# 名古屋市SDGs推進プラットフォームによるプロギングに参加！



<p>活動の概要</p>	<p>本学SDGsセンター長である林教授と事務職員3名が、2021年12月4日（土）に名古屋市SDGs推進プラットフォーム会員限定交流イベントとして開催された「プロギング」に参加しました。</p> <p>「プロギング」とは、ごみ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発の新フィットネスで、走って健康に、拾ってエコに、環境と健康の両方にやさしいSDGsを体現できる新しいスポーツです。</p> <p>本学から参加したチームは、会場となった丸の内エリアを中心に、2km強ほどの距離をジョギングしながらごみ拾いを行いました。</p> <p>今回のプロギング全体では、35kgものゴミを拾いました。</p> <p>本学では今後も、名古屋市と連携し、SDGs達成に向けた活動を積極的に推進していきます。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">名古屋市SDGs推進プラットフォーム×プロギング</a></p>



## 東京海上日動「SDGsまつり」に参加！



活動の概要	本学は、2021年12月14日（火）に名古屋東京海上日動ビルディングで開催された「SDGsまつり」（主催：東京海上日動火災保険株式会社）にブース出展をしました。 本学の研究、教育、学生活動の代表的な取り組みについてパネル等で展示を行い、本学のSDGs活動について広くPRを行いました。 ブースには、行政、企業、他大学など様々な機関の方が立ち寄り、SDGsの取り組みに関する情報交換を行いました。
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">東京海上日動 SDGsまつり</a>





# 「マイナビ学生の窓口」に本学学生のSDGs活動が登場！



活動の概要	マイナビの学生向け情報メディア「マイナビ学生の窓口」内の特集「大学生と考えるSDGs」で、本学人文社会学部伊藤恭彦教授ゼミの活動（NCU Global Justice project）が紹介されました。
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">価値観の変容から循環型社会の表現を目指して～NCU Global Justice Projectの取り組み～</a>



## 本学学生がLGBTQ+をテーマとしたオリジナル絵本を保育園・幼稚園等で読み聞かせ



本学の経済学部 鶴飼宏成ゼミの学生たちが、LGBTQ+をテーマとして制作したオリジナル絵本『あおいくんのかみかざり』について、名古屋市内の保育園・幼稚園等で読み聞かせを行いました。

この絵本は、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG4（質の高い平等をみんなに）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）に着目し、「性の多様性に理解のある子どもたちが増えてほしい」という学生たちの想いから制作されたものです。

### ◆絵本の詳細

『あおいくんのかみかざり』

- ・対象年齢：幼稚園年長～小学校低学年(5～7歳)
- ・発売日：2021年11月10日
- ・価格：2,090円（本体1,900円+税10%）
- ・出版社：三恵社
- ・販売場所：Amazon、丸善名古屋本店、名古屋市立大学生協

・内容：LGBTQ+の中の「T」（トランスジェンダー）がテーマ。小学1年生の《そらくん》が同級生の《あおいくん》がつけていた髪飾りを褒めるところから始まり、一人の男の子が性の多様性に気づいていく物語。



詳細は、以下の報道発表資料をご確認ください。

[学生制作オリジナル絵本\[テーマ：LGBTQ+\]と保育園・幼稚園等での読み聞かせ活動のご案内](#)

※本件は、2022年1月20日（木）のCBCテレビ「チャント！」で放送されました。

# 国費留学優先配置(特別枠)事業「環境健康安全学」プログラム



活動の概要	主に東南アジア諸国の①海外拠点校②大学間交流協定校から選抜された国費留学生に加え、本学の医学研究科、薬学研究科、理学研究科に入学した私費留学生と日本人学生が、「環境健康安全学」に関連した教育と研究を協働して行います。このプログラムでは、通常環境健康安全学に関連する講義科目の受講および研究に従事することに加えて、グローバルレベルでのSDGsに関連した課題について議論し解決策を提示するアクティブラーニングやSDGs関連機関でのインターンシップを行うなどの特色があります。
活動の時期	2020年度～2026年度
関連URL	<a href="#">MEXT scholarship   国際交流・留学   名古屋市立大学 (nagoya-cu.ac.jp)</a>
期待される効果、今後の展望	このプログラムで学んだSGSに関連する知識や経験を元に、プログラム受講生は東南アジア地域等でのSDGs関連のリーダーになることが期待されています。また、このプログラムの履修を通じて培われた人脈は、グローバルレベルでのSDGs課題解決に役立つことも期待されています。
所属	医学研究科、薬学研究科、理学研究科
氏名	高橋智、上島通浩、安井孝周、頭金正博、肥田重明、熊澤慶伯、雨夜徹
専門分野	公衆衛生、環境科学、衛生化学、生態学



一期生アクティブラーニング発表会

# 高知県立牧野植物園の植物コレクションから新たなメカニズムの抗がん剤として期待される成分の発見



活動の概要	<p>【研究の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「小胞体ストレス応答（UPR）」の慢性的な活性化は、がんや糖尿病、神経変性疾患などの様々な疾患の発症や悪性化の原因となることから、UPRの制御異常を抑制する治療アプローチを開発しています。</li> <li>世界的にも研究が進んでいないミャンマー産植物について、植物資源としての価値を開発しています。</li> </ul> <p>【研究の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高知県立牧野植物園が保有するミャンマー産植物由来抽出液ライブラリーを用いてUPR抑制作用をスクリーニングしました。</li> <li>スクリーニングの結果、植物由来成分ペリプロシンがUPRを抑制することを発見しました。</li> <li>ペリプロシンのUPR抑制作用は強心配糖体に固有の構造に強く相関することを見出しました。</li> </ul>
活動の時期	2021年5月（論文発表）
関連URL	<a href="#">2021年6月4日プレスリリース</a>
researchmap URL	<a href="https://researchmap.jp/read0094185">https://researchmap.jp/read0094185</a>
関連する論文	<p>“Periplocin and cardiac glycosides suppress the unfolded protein response”            Muneshige Tokugawa; Yasumichi Inoue; Kan'ichiro Ishiuchi; Chisane Kujirai; Michiyo Matsuno; Masaki Ri; Yuka Itoh; Chiharu Miyajima; Daisuke Morishita; Nobumichi Ohoka; Shinsuke Iida; Hajime Mizukami; Toshiaki Makino; Hidetoshi Hayashi            Scientific Reports 11 9528 2021年 5月 [査読有り]</p>
期待される効果、今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>本研究で明らかとなったペリプロシンのがんに対する作用のほか、糖尿病や神経変性疾患などに対しても新しい治療薬となる可能性が考えられ、更なる研究の発展が待たれます。</li> <li>創薬研究をはじめとする更なるミャンマー産植物資源の活用が期待されます。</li> </ul>
所属	薬学研究科
氏名	林 秀敏
専門分野	薬系衛生、生物化学、腫瘍生物学

## 名古屋市立大学男女共同参画奨励賞



活動の概要	名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。
活動の時期	2013年以降
関連URL	<a href="#">男女共同参画奨励賞</a>

# 名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画



活動の概要	<p>2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして—大学で男女共同参画を考える—」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。</p> <p>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。</p>
活動の時期	<p>【男女共同参画宣言】2012年3月</p> <p>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長）</p>
関連URL	<p><a href="#">男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション</a></p>

## 保健NGOとの連携



活動の概要	<p>一般社団法人Bridges in Public Health (BiPH) は、知づくり、場づくり、人づくりを通して、科学と社会、専門職と一般の人びと、地域と世界をつないでHealth for AllをめざすNGOです。BiPHを設立し、代表をつとめています。</p> <p>現在は、東ティモールでのJICA草の根技術協力事業の実施、コミュニティ活動のための書籍の翻訳、定期勉強会の開催などが主な活動です。</p> <p>勉強会共催、インターン受け入れ、草の根技術協力事業のカウンターパートとの共同研究など、本学の教育、研究との連携を行っています。</p>
活動の時期	継続中（2022年2月現在）
関連URL	<p>一般社団法人Bridges in Public Health WEBサイト</p> <p>一般社団法人Bridges in Public Health Facebookページ</p>
researchmap URL	<a href="https://researchmap.jp/read0145307">https://researchmap.jp/read0145307</a>
関連する論文	- Kyoto Sasaki. Associations between Infant and Young Child Feeding (IYCF) practice and attitudes toward intimate partner violence (IPV) in Timor-Leste. Nagoya: Nagoya City University Graduate School of Nursing (Master thesis); 2022.
期待される効果、今後の展望	<p>JICA草の根技術協プロジェクトでは、住民の健康ニーズを的確に把握できる人材の育成を実施中です。また、プロジェクトと橋渡しした大学院生の修士論文は、投稿準備中です。</p> <p>Helping Health Workers Learnの翻訳は5月ごろ発刊予定です。保健関係者だけでなく、コミュニティで活動している人びとに活用してもらえるようなしなやかなりにつなげていきます。</p> <p>NGOの強みと大学の強みを相互に生かして、今後も学生の受け入れ、協働した活動、共同研究、共同研究の橋渡しなどで連携していきます。</p>
所属	看護学研究科
氏名	樋口 倫代
専門分野	公衆衛生



草の根技術協プロジェクトのため予備調査

26-1

### 第26章 人間関係が健康に与える影響に注目する

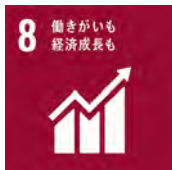
世界保健機関（WHO）によれば、健康とは、身体的、精神的、社会的に完全に良好な状態（ウェルビーイング）のことであり、単に病気や疾患がないということではない、とされています。私たちも同意します。

本書ではこれまで、いかに多くの場面で人的要因<sup>18)</sup>が健康とウェルビーイングを決定づけているか、ということをお述べてきました。ここで言っている「人的要因」とは、人がどのようにお互いに助け合ったり、助け合ったりするのかが、ということです。また、多くの人が病気になる背景に貧困がどのように潜んでいるのかも見てきました。そして第23章と第25章では、世界で起きている問題は、人口増加や土地や資源の不足が主な原因ではないことを論じました。問題は、不公平な分配—土地、資源、意思決定の権利が公平に与えられていないことに起因しているのです。つまり、このことです。



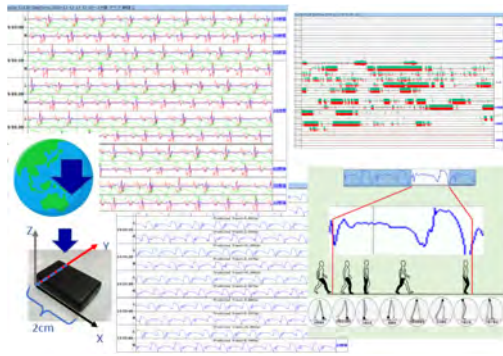
発刊予定の「Helping Health Workers Learn」日本語版（サンプル）

# ポストコロナ社会での身体機能維持・向上のための環境デザイン開発



活動の概要	<p>【研究の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者で問題となっているフレイル予防の取り組み、さらに前段階のメタボリックシンドロームが主体となる現役世代から職場、地域を巻き込んだ地域システム創りを目指しています。</li> </ul> <p>【研究の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ店で市販されているアンクルウエイト（AW）をスマートフォンなどと連動させて社会実装しその有効性を証明します。中京大との共同研究でAWの有効性の実証を行いました。</li> <li>・介入研究で得た血液を今後、立命館大学との共同研究で代謝マップ上でのダイナミックな動きを捉えるべくメタボローム解析体制を確立しました。</li> <li>・名古屋市健康福祉局との連携で地域包括ケア体制にこれらの体制を組み込んでいく施策を模索します。</li> </ul>
活動の時期	<p>2020年2月：AMED令和元年度「IoT等活用行動変容研究事業 成果報告会」</p> <p>2021年12月：論文発表</p>
関連URL	<p><a href="#">令和元年度 IoT等活用行動変容研究事業 成果報告会 概要</a></p> <p><a href="#">名古屋市立大学 近未来労働環境デザイン拠点</a></p>
researchmap URL	<p><a href="https://researchmap.jp/hiroyasuakatsu">https://researchmap.jp/hiroyasuakatsu</a></p>
関連する論文	<p>Narouei S, Akatsu H, Watanabe K Regional neuromuscular regulation within rectus femoris muscle following three-month limb-loaded walking in older adults Sports Medicine and Health Science Available online 14 December 2021</p> <p>Muguruma Y, Nagatomo R, Kamatsuki S, Miyabe K, Asano G, Akatsu H, Inoue K. Experimental design of a stable isotope labeling derivatized UHPLC-MS/MS method for the detection/quantification of primary/secondary bile acids in biofluids. J Pharm Biomed Anal. 2021 Nov 25;209:114485. doi: 10.1016/j.jpba.2021.114485. Online ahead of print. PMID: 34856492</p>
関連する特許	<p>発明の名称：転倒予防システム</p> <p>発明者 赤津裕康、森啓悟、加藤周平</p> <p>出願日 2019年6月25日</p> <p>出願番号 特願2019-117877</p>
期待される効果、今後の展望	<p>1) 現役世代からのメタボリックシンドロームからフレイルまでを包含的に予防する習慣づけや職場・地域支援体制の構築によるその後押しシステムにより健康寿命の延伸が期待できる。</p> <p>2) 既存の血液検査の概念を取り払い、ダイナミックな代謝マップ上での血液低分子の動きを捉える事で血液成分のデジタル化を図り、早期の予防介入体制を構築できる。</p>
所属	<p>名市大病院地域包括ケア推進研究センター/大学院医学研究科地域医療教育学</p>
氏名	<p>赤津 裕康</p>
専門分野	<p>老年医学、総合内科・総合診療</p>





ワイドメタボロミクスの開発へ



## 2021年度 国連食糧農業機関（FAO）へのインターンシ ップ生の派遣



活動の概要	<p>国連食糧農業機関（FAO、本部イタリア・ローマ）は世界の農林水産業の発展と農村開発に取り組む国連の専門機関です。1945年に設立され、196の加盟国（2つの準加盟国含む）およびEU（欧州連合）から成り、食糧安全保障や飢餓撲滅運動等の持続的開発目標（SDGs）の達成を目指しています。本学は2010年にFAOとインターンシップ派遣に関する協定を締結し、2011年度より同機関の水産局にインターン生派遣を開始しました。2018年度より、同機関のインターンシッププログラム見直しにより、インターンの派遣先が全世界のオフィスに拡大されました。</p> <p>2021年度は、学生2名がFAOスリランカ事務所でのインターンシップおよびカンボジア事務所でのフェローシップにそれぞれ1ずつ参加しました。従事期間は約3か月で、オンラインで実施されました。</p>
活動の時期	<p>2011年度よりインターン生の派遣開始 2018年度よりインターンシッププログラム見直し 2021年度：派遣実績2名</p>
関連URL	<p><a href="#">国連食糧農業機関(FAO)インターンシップ</a></p>

## 新型コロナウイルスワクチン 大規模集団接種会場閉場式にて 名古屋市より感謝状が贈られました！



活動の概要	<p>新型コロナウイルスのワクチン大規模集団接種会場となっていたパロマ瑞穂スタジアムにおいて、10月21日（木）に閉場式が行われました。同スタジアムでは、2021年7月1日（木）～10月20日（水）の112日間、のべ約3,400名の医療従事者により計155,053回のワクチン接種が実施され、本学からは医師・歯科医師・看護師・薬剤師のべ約2,900名を派遣して予診・接種・薬剤管理等の業務に従事しました。こうしたワクチン接種事業への貢献に対し、名古屋市より感謝状が贈られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a>（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a></a>

## 第14回・15回 教育改革フォーラムを開催



活動の概要	<p>名古屋市教育委員会との連携協力協定に基づき、今年度、本学の教員2名と市立高校の教員2名が、相互に出向いて教育活動等を行う人事交流を行っています。</p> <p>2021年9月21日（火）、「高大連携の新しい地平を拓く—名古屋市教育委員会と名古屋市立大学の挑戦—」をテーマに第14回教育改革フォーラムを開催し、4名の派遣教員による講演が行われました。高等学校における新しい教育実践、今年度前期の研究・教育実践の成果、人事交流の今後の課題等について発表されました。</p> <p>2021年10月11日（月）の第15回教育改革フォーラムでは、関西大学より教育推進部教授の山田剛史氏をお招きし、「教学IRをどう理解し、実践するか」をテーマにご講演いただきました。講演後のアンケートでは、「教学IRとは何か、具体的にはどのような活用方法があるか理解できた」「他大学の運用状況が学べた」などの声があり、教学IRについて教職員が関心を持つきっかけになりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』Vol.42</a>（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年9月、10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』Vol.42</a></a>

## 都市政策研究センターが「ロボット・AI・IoT導入経営 人材育成講座」を開催



活動の概要	<p>2021年8月6日（金）から9月24日（金）までの間、名古屋市・名古屋工業大学との連携事業として、企業の経営者層を対象にロボット・AI・IoT導入経営人材育成講座（全8回）を開催しました。ロボット・AI・IoTに精通した本学の各研究科の教員9名により、AIの基礎となる機械学習や個人情報保護・情報倫理の重要性、ロボット基礎や産業応用事例の紹介、信号・画像処理分野におけるAIやIoTの導入事例など、ロボット・AI・IoT導入の計画や検討に必要な基礎・応用知識を学ぶ多彩な講義を開講しました。熱心な受講者からは質問が飛び交い、「有益な講義だった」「新鮮な知識を得られることが嬉しい」との声も聞かれ、好評を博しました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月～9月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.42</a>

## 2021年度サイエンスパートナーシップイベント「生命の源としくみを探る」を開催



活動の概要	<p>2021年11月3日（水・祝）、中高生を対象に市科学館でサイエンスパートナーシップイベント「生命の源としくみを探る」を開催し、55名の参加がありました。本学からは医学研究科 奥野友介教授と理学研究科 中務邦雄准教授が、科学館からは小林修二学芸員が、ウイルスやたんぱく質、宇宙といったさまざまな切り口から生命の源としくみについて講演しました。講演では、講師の研究内容や科学館の展示について紹介され、参加者が熱心に聞き入る様子が印象的でした。講演後には科学館展示自由見学のほか、「国際宇宙ステーション」に関するプラネタリウム観覧が行われ、生命科学やその研究への関心を深めてもらう良い機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.42</a>

## 名市大病院に支援型自動販売機を設置



活動の概要	<p>2021年8月17日（火）に、名市大病院内に日本小児がん研究グループ（JCCG）と株式会社伊藤園のコラボレーションにより、JCCGオリジナルデザインの動物の絵をラッピングした支援型自動販売機が設置されました。この自動販売機で飲料を購入すると、売り上げの一部がJCCGに寄付され、小児がんの治療・研究に活用されます。飲料1本から寄附ができます。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a>（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a></a>

## 栗原研究室が映画祭で受賞ラッシュ



活動の概要	<p>芸術工学研究科 栗原研究室の作品が、海外の映像祭で多数受賞しました。同研究室は映像作品の制作技術だけでなく、そこで表現される内容/社会的メッセージを大切にしております。車椅子生活の様子を描く作品やLGBTの問題、アダルトチルドレン症候群などさまざまなテーマに挑戦しており、今年度はSDGsをテーマにした作品も多く制作しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a> (2021年12月発行) に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』 Vol.42</a></a>



## ダイバーシティ宣言・行動計画



活動の概要	名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。
活動の時期	【ダイバーシティ宣言】2019年2月 【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで
関連URL	<a href="#">ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制</a>

# 尿路結石患者の国内データ・バイオバンク設立研究(多施設共同前向き研究)



活動の概要	本研究は、尿路結石症患者の臨床情報と検体試料を集め、保存するための前向き登録研究です。本研究の目的は、臨床情報のみならず結石・腎組織・尿・血液から得られる情報において、尿路結石の形成につながる病態を明らかにすることです。さらに、データ集積管理システム(Research Electronic Data Capture: REDCap)への臨床情報の蓄積より、生体試料の解析結果と臨床アウトカムの関係を明らかにし、オーダーメイドの薬物治療を開発することができます。
活動の時期	2019年：8月 2021年：8月・12月
関連URL	<a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/media/20190912_seeds_taguchi.pdf">https://www.nagoya-cu.ac.jp/media/20190912_seeds_taguchi.pdf</a>
researchmap URL	<a href="https://researchmap.jp/kazumi.taguchi">https://researchmap.jp/kazumi.taguchi</a>
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Taguchi K, et al. Genome-wide gene expression profiling of Randall's plaques in calcium oxalate stone formers. J Am Soc Nephrol 28:333-47.2017</li> <li>• Tzou DT, Taguchi K, et al. Computed Tomography Radiation Exposure Among Referred Kidney Stone Patients: Results from the Registry for Stones of the Kidney and Ureter. J Endourol. 33: 619-624, 2019</li> <li>• Taguchi K, et al. Ureterscopy-assisted puncture for ultrasonography-guided renal access significantly improves overall treatment outcomes in endoscopic combined intrarenal surgery. Int J Urol. 28:913-919, 2021.</li> </ul>
期待される効果、今後の展望	尿路結石症は10人に一人が罹患し、世界3大疼痛としても知られる疾患です。有用な薬物治療が確立されておらず、社会的なニーズからこのような世界初の大規模データ・バイオバンクの設立に向けて従事してまいります。今後の展望として、多施設にて尿路結石症患者の登録を行います。臨床情報の解析及び生体試料情報との関連解析から、バイオマーカーの検索、病態責任遺伝子の同定を行い、個別の最適治療の確立を目指します。
所属	医学研究科 腎・泌尿器学分野
氏名	田口 和己
専門分野	尿路結石症・腎疾患・内分泌代謝疾患

## CRYSTAL-J 研究

Clinical RegistrY of STones for Analyzing Lithogenesis in Japan

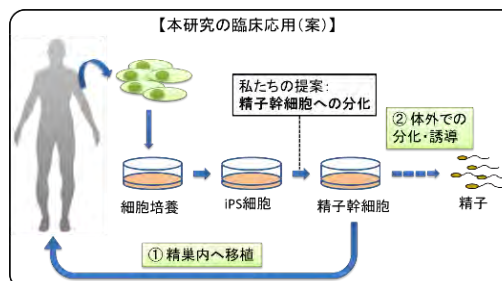
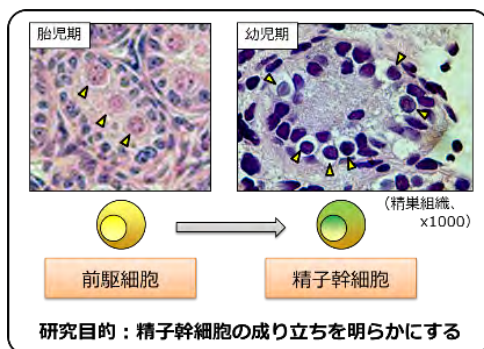


名古屋市立大学を含む国内6大学が基幹施設となっています。

# 精子幹細胞の発生・分化・維持メカニズムに関する包括的研究



活動の概要	精子形成は思春期以後の精巣で継続的に行われる、細胞分化と形態形成とが協調して進行する過程です。神経や皮膚組織と同様に、精巣組織にも組織幹細胞(精子幹細胞)が存在することが明らかにされましたが、その発生・分化・維持メカニズムは不明です。これまでに私たちは、実験動物を用いた造精機能障害の機序や、ヒト精巣発生過程について解析を進めました。これらの解析結果をふまえ、前駆細胞から精子幹細胞の成り立ちを明らかにすべく基礎研究を行っています。
活動の時期	2021年11月 (論文発表)
関連URL	<a href="https://www.nagoya-cu.ac.jp/media/20220120-2.pdf">https://www.nagoya-cu.ac.jp/media/20220120-2.pdf</a> <a href="https://www.eurekalert.org/news-releases/940724">https://www.eurekalert.org/news-releases/940724</a>
researchmap URL	<a href="https://researchmap.jp/read0020220">https://researchmap.jp/read0020220</a> (林 祐太郎) <a href="https://researchmap.jp/read0155161">https://researchmap.jp/read0155161</a> (水野 健太郎) <a href="https://researchmap.jp/ncu_nishio">https://researchmap.jp/ncu_nishio</a> (西尾 英紀)
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Kato T, Mizuno K, Nishio H, Hayashi Y, et al. J Urol, 2021 (in press)</li> <li>● Mizuno K, Nishio H, Hayashi Y, et al. J Urol, 192: 535-41, 2014</li> <li>● Nishio H, Hayashi Y, et al. J Urol, 191: 1564-72, 2014</li> <li>● Moritoki Y, Nishio H, Hayashi Y, et al. J Urol, 191: 1174-80, 2014</li> <li>● Mizuno K, Nishio H, Hayashi Y, et al. Urology, 82: 1453. e1-7, 2013</li> <li>● Kamisawa H, Hayashi Y, et al. J Urol, 187: 1047-52, 2012</li> </ul>
期待される効果、今後の展望	実験動物を用いた研究から、精子幹細胞の分化にヒストン修飾や、microRNAによるエピジェネティックな遺伝子発現制御が関与することを明らかにした。今後、詳細なメカニズムについて解析していきたいと考えています。本研究をもとに生体内の精子幹細胞の分化を効率よく誘導・促進する方法が開発できれば、iPS細胞から精子幹細胞を誘導するなど、男性不妊症に対する新規治療法へ応用することが可能と考えています。
所属	医学研究科 小児泌尿器科学分野
氏名	林 祐太郎、水野 健太郎、西尾 英紀
専門分野	小児泌尿器科学、アンドロロジー



## 本学人文社会学部の学生が「スマホでオフラインでも見ることができるポケット防災」を作成



活動の概要	<p>本学の人文社会学部の曾我ゼミの学生たちが、滝子キャンパスで学ぶ学生を対象に防災の情報を提供する「スマホでオフラインでも見ることができる新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>本学では、滝子キャンパスで学ぶ学生全員に防災情報が載っている持ち運び可能な「ポケット防災」を紙媒体にて配布していますが、曾我ゼミの学生たちはより携帯しやすいようにスマホに着目し、オフラインで閲覧可能な「新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>こちらは「防災用品リスト」「大学マップ」「ハザードマップ」などの情報が新たに追加された他、「誰一人取り残さない」を目標に様々なニーズを反映した内容にすることを心がけたり、やさしい日本語表記の冊子を別に作成したりするなどの工夫がされています。</p> <p>今後は従来のポケット防災の補足資料として、滝子キャンパスで学ぶ学生に配布する予定です。</p>
活動の時期	2021年度



## 本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！



活動の概要	SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決することを目指して開催された「SDGs IDEA FORUM 2021」において、本学から参加した「Co-link」（人文社会学部3年・2年）が優秀賞を受賞しました。
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a>



### 【優秀賞】

チーム名：Co-link  
企画名：『CoCoからマッピング』  
(人文社会学部3年・2年)

## SDGs IDEA コンテストを開催



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を実施しています。</p> <p>総数38件の応募アイデアのうち、厳正な書類選考を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2022年2月26日に本学さくら講堂で開催されました。</p> <p>当日は、参加した8チームによるプレゼンテーションが行われた他、本学SDGセンター副センター長でエコチル調査愛知ユニットセンター副センター長の榎原准教授（医学研究科）による講演等が行われました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">SDGs IDEA FORUM 2021</a>



# NCUサステナビリティ・シンポジウム2021報告書刊行



<p>活動の概要</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を2021年11月3日(水)にオンライン(ZOOM使用)にて開催しました。シンポジウムでは、計8チームが防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきことは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。その報告内容および共同ワークショップの概要をまとめた報告書が完成しました。子どもたち・若者たちの声を通して、改めて防災について考える機会となりました。</p> <p>なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。</p> <p>【参加チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ</li> <li>・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation</li> <li>・オルタナティブスクール あいち惟の森</li> <li>・名古屋市立北高等学校国際理解コース</li> <li>・名古屋市立名東高等学校国際英語科</li> <li>・名古屋市立工芸高等学校都市システム科</li> </ul>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年1月刊行</p>
<p>関連URL</p>	<p><a href="#">NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催</a></p>
<p>所属</p>	<p>人間文化研究科(人文社会学部心理教育学科)</p>
<p>氏名</p>	<p>曾我 幸代</p>
<p>専門分野</p>	<p>ESD</p>



NCUサステナビリティ・シンポジウム報告書 (PDF ファイル 6.86MB)

## 開学70周年記念式典を行いました



活動の概要	<p>2022年2月19日（土）、名古屋マリオットアソシアホテルにて名古屋市立大学 開学70周年記念式典を開催しました。</p> <p>この式典は、開学70周年の節目の事業として、2020年10月31日（土）に執り行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、この日に延期したものです。</p> <p>第一部の記念式典では、学長式辞、来賓祝辞、来賓紹介、交流会副会長祝辞の後、大学紹介映像「70年の歩みと明るい未来」を上映し、続いて吉田和生副学長より開学70周年記念事業等の紹介がありました。</p> <p>冒頭の式辞で学長は、名市大の発展のために必要な3つの要素について梅の成長に例えて話し、名市大を温かく支えて下さった名古屋市や地域の皆さまへの感謝の気持ちと、さらなる発展のための意気込みを示しました。</p> <p>第二部の記念講演会では、国際協力・ジェンダー専門家の大崎麻子氏を講師にお招きし、「SDGsを考える～創造する未来～」をテーマにご講演いただきました。世界全体で注目されている国際目標SDGsとその達成の先にある未来について考えるための貴重な機会となりました。</p> <p>なお感染症対策のため、参加人数や規模を縮小しましたが、記念式典の様子はYouTubeで生中継し、来場者・視聴者合わせ約300名の関係者や市民の皆さまとともに開学70周年の喜びを分かち合うことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>



## 新型コロナウイルス感染症拡大で医療ひっ迫が深刻化する沖縄県に看護師を派遣！



活動の概要	<p>文部科学省および愛知県看護協会からの派遣要請に基づき、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により医療のひっ迫が深刻となっている沖縄県を支援するため、本学から下記のとおり看護師を延べ7名派遣しました。その様子はメディアに取り上げられました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月～2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 令和3年度 名古屋市立大学交流会総会を開催しました



活動の概要	2022年2月19日（土）令和3年度 名古屋市立大学交流会総会を開催しました。 当日はオンライン生中継を含め、多くの方にご参加いただきました。  ※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。
活動の時期	2022年2月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 瑞穂警察署より感謝状が贈られました



活動の概要	<p>2022年1月13日（木）、本学の日頃からの警察業務への協力に対し、瑞穂警察署より感謝状が贈られました。本学では、瑞穂警察署より提供された防犯に関する啓発動画を名市大病院内のモニターで表示したり、同病院の正面玄関で瑞穂警察署による啓発活動を行うなど、日頃から協力を進めています。また、大規模な災害が発生し、瑞穂警察署の庁舎が使用できなくなった場合に、滝子（山の畑）キャンパス内の施設を瑞穂警察署が一時使用できることを定めた覚書を締結しています。地域を守るパートナーとして、これからも連携を進めてまいります。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">創新</a>』Vol.43</a>

## FD・SD講演会を開催！



活動の概要	<p>2021年12月24日（金）に「コロナ禍における新しい授業・学生支援の取り組み」をテーマに、FD・SD講演会を開催しました。当日は、経済学研究科の山本奈央准教授、芸術工学研究科の寺嶋利治助教、看護学研究科の益田美津美准教授から、それぞれ遠隔授業の実施における工夫や課題などについての講演がありました。この講演会には名古屋六大学(※)も参加しており、合計で100名以上の教職員が参加しました。講演後のアンケートでは、「コロナ禍にていろいろと授業の工夫をしているところが多く、とても参考になった」、「教員側の新しい取り組みに対する、学生側の反応を知ることができた」などの声があり、教職員にとって、今後のさらなる授業内容の向上を考える機会となりました。</p> <p>(※) 名古屋六大学：名古屋市立大学、名古屋大学、名古屋工業大学、南山大学、名城大学、中京大学</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## タシケント医学アカデミーとの学術交流協定締結 およ びウズベキスタン共和国駐日大使の来訪



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、タシケント医学アカデミー（ウズベキスタン共和国タシケント市）と学術交流協定を締結し、2021年10月15日（金）にオンライン形式にて協定締結式を開催しました。先方よりアリシャール・シャドマノフ学長、アシソファ・フェルサ副学長、ムロド・ジャファロフ国際部長が、本学より郡学長、医学研究科の高橋研究科長と安井教授が参加し、今後の共同研究等をはじめとした交流について意見交換を行いました。</p> <p>また、協定締結式に合わせて、駐日ウズベキスタン共和国大使館のムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ特命全権大使ご一行が本学を表敬訪問されました。その後、本学とウズベキスタン共和国内の大学との今後の交流について参加者らと話し合われました。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43</a>

## 国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」が Christmas Partyを開催！



活動の時期	<p>2021年12月12日（日）、国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」により、留学生と日本人学生の交流を目的としたChristmas Partyが開催されました。本年度は十分な感染対策を行った上で対面で開催することができ、留学生と日本人学生合計約20名の学生が参加しました。和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームやクイズ大会、プレゼント交換など楽しいイベントが行われました。コロナ禍では久々の対面でのイベント開催となり、留学生と直接コミュニケーションをとることができる素晴らしい機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## ジャウメ I 世大学（スペイン）と大学間交流協定を締結！



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、ジャウメ I 世大学（スペイン）と学術交流協定および学生交流協定を締結しました。2021年12月2日（木）にオンライン協定締結式が開催され、両大学学長および関係者らが出席しました。ジャウメ I 世大学のエバ・アルコン学長は、「日本との関係強化に向け、さらなる一歩を踏み出した」、名古屋市立大学の郡学長は、「スペイン語圏の国々から多くの学生を受け入れたい」とあいさつしました。締結式の後は、ジャウメ I 世大学の教員や職員による「スペイン短期派遣研修説明会」が行われ、学部生・大学院生が参加しました。今後、スペイン語圏との学生交流が活発となることを期待しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 東ティモールパーツ大学との第2回オンライン交流講義 を開催！



活動の概要	<p>2021年11月11日（木）、本学看護学部の教室、パーツ大学公衆衛生学部の教室と同大学のフィールド実習サイトである2つの村をつないで交流講義を開催し、両校の学生、教員合わせて約250名が参加しました。本学からは、看護学部2年生3名が日本の保健師の仕事の紹介をし、看護学研究科博士前期課程2年生が東ティモールの公的データを使った研究結果を発表しました。パーツ大学からは、1年生と教員により公衆衛生学部の紹介があった後、村でのフィールド実習の様子について発表がありました。すべて英語で実施され、とても貴重な交流の機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>



## 「日本語Talk Time～雅～」を開催！



活動の概要	<p>2022年1月12日（水）、国際交流センターと同センター公式学生団体「NCU GO!」、「よいしょ」が合同で「日本語Talk Time～雅～」をオンライン開催しました。このイベントは日本語での交流を目的としており、タイ、アメリカ、ドイツ、韓国の国際交流協定大学と名市大の学生あわせて55名が参加しました。教員と学生団体が企画した5つのブレイクアウトルームが用意され、参加者は各自興味のあるルームに参加する形式で行われました。特に参加者へ漢字の名前をプレゼントするコーナーでは大いに盛り上がりました。コロナ禍でも国際交流協定大学の学生とつながることができた貴重な機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 鶴舞中央図書館主催 絵本の読み聞かせイベントに本学 留学生3名が出演！



活動の概要	<p>2021年12月11日（土）に、鶴舞中央図書館の主催、本学国際交流センターの協力により、「せかいのことばでおはなし会」が開催され、本学の留学生3名がゲスト出演しました。2014年から毎年開催されており、今年で9回目の開催となりました。このイベントは、留学生がそれぞれの母語で絵本の読み聞かせをするというもので、本年は中国語、英語、韓国語で行われました。4歳前後のお子さんやその保護者の方計10名の参加があり、絵本の朗読の他、出身地の紹介やそれぞれの言葉で「ジングルベル」を一緒に歌うお楽しみ時間が設けられ、参加者みんなでの交流が行われました。イベント終了後には、出身地に関して留学生に質問をする子どもの姿も見られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 人文社会学部学生が瑞穂区高校生向けに「SDGsと観光まちづくりについて考えるワークショップ」を開催！



活動の概要	<p>人文社会学部三浦哲司准教授のゼミでは、「名古屋の観光まちづくり」をテーマに、カードゲーム体験を通じて観光まちづくりのあり方を体験できるワークショップを、中学生や高校生向けに展開しています。今回は2022年1月13日（木）に、瑞穂区内の高校生23名の参加の下、SDGsを意識しながら、名古屋の観光の振興とその反作用の両面を考えるワークショップを開催しました。参加した高校生は、学校も学年も異なる5チームに分かれ、カードゲームに挑戦しました。初対面同士でチームを組みましたが、時折笑いも起こるなど、和やかな雰囲気の中でゲームは進んでいきました。参加した高校生からは、「まちづくりについて考える良い機会になった」「今日の学びを自らの行動につなげたい」などの感想も寄せられています。この取り組みは瑞穂区役所との連携で行われているもので、今後も継続していく予定です。</p> <p>※本件は本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『<a href="#">『創新』</a> Vol.43</a>

## KOUGEI-EXPOに出展！～芸術工学部学生がデザインした「尾張仏具の新しい祈りのカタチ」～



活動の概要	<p>住環境の変化や「宗教離れ」の影響により、仏壇仏具の売上は年々減少してきています。しかし、故人を想う気持ちは、時代が変わっても失われるわけではありません。そのような背景から、若者の感性で「新しい祈りのカタチ」をデザインする試みが、尾張仏具技術保存会と芸術工学部影山友章研究室との連携により実施されました。約1年の開発期間を経て、産業イノベーションデザイン学科3年の磯田彩穂李さん、黒田和花さん、幸田悠さんがデザインした3つの仏具が、第38回伝統的工芸品月間国民会議全国大会（KOUGEI-EXPO）に出展されました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.43</a>

## 本学教員が日本空調システム株式会社のダイバーシティ研修会に講師として参加



活動の概要	<p>日本空調システム株式会社における社内研修会（2022年3月24日開催）に、本学人間文化研究科の宮下准教授が講師として参加しました。当日は、「ワークライフバランスとダイバーシティ～職場におけるダイバーシティ～」というテーマで、普段本学で学生に講義している内容を中心に、約80名の社員の方に向けて講演を行いました。</p> <p>日本空調システム株式会社は、本学のSDGsサポーターとして認定されている企業です。</p> <p>参加者からは、「『知らなかった』ではなく、『正しく知ろうとする』という意識を今後持ち続けていきたいです。」「自分の周囲にもLGBTで悩んでいる人がいるかもしれないと思い、発言や行動には注意しようと思いました。」などの感想が寄せられました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	<a href="#">日本空調システム株式会社</a>



## 国立台北護理健康大学との学術交流協定を締結しました



活動の概要	<p>2022年3月17日、国立台北護理健康大学（台湾）と学術交流協定を締結しました。オンライン形式にて交流協定締結式が開催され、両大学の学長はじめ、関係者が出席しました。国立台北護理健康大学の吳淑芳（ウー・シュー・ファン）学長は、「ウィンウィンの関係を築いていけることを確信している」、本学の郡理事長は、「分野を問わず、大学全体として実りのある今後の交流に期待する」と述べました。</p> <p>また締結式後には、先方大学の「研究開発センター」と本学看護学研究科の共催により、オンラインセミナーが開催され、それぞれの大学の教員と博士課程学生が発表を行いました。セミナーには双方の教員と学生が多数参加し、大変実りのあるものとなりました。今後ますますの交流が期待されます。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	<a href="#">本学広報誌『創新』Vol.44</a>